

未来を拓く科学大好き教育 通信

郷土博物館 特別研究員 指導課 特別指導員
岩波 英一

「理科室のおじさん」を訪ねて

その21 日立市立仲町小学校



日立理科クラブ「理科室のおじさん」、徳永紀一さんを訪ねました。徳永さんは、仲町小学校での活動をはじめて3年目です。たまたま、病院帰りのバスの中で日立理科クラブ関係者の方から誘いを受けたのが、日立理科クラブに所属したきっかけになったということです。出身は新潟県の妙高村(現在は、妙高市)で、中学校まで生活をし、その後は高校進学を機に長野県に下宿をし、昭和34年3月に日立製作所・日立研究所に入社、現在まで日立に居を構えて生活することになったそうです。

故郷は2000mを超える山々があり、風光明媚な景勝地が散在するなど、温泉地や高原地を訪れる観光客の人気のスポットになっているそうです。「私の生まれ

故郷は、冬は雪が多く四季の区別がはっきりしている所です。日本海に近いので、魚がとても美味しく、寒ブリはごちそうです。山菜採りやキノコ狩り、小川で魚釣り、自然に囲まれた中で伸び伸びすごしていました。」と、子どもの頃にタイムスリップして、話をしてくれました。

日立研究所での勤務は、コンピュータや電子レンジ、医療用X線などの特殊な電源装置の研究開発に携わっていました。その間、「変圧器内部のエネルギーの活用を特徴とする高周波インバータとその応用」に関する研究を通して、東京都立大学から工学博士の学位が授与されました。電気学会の各種調査専門委員会の委員を歴任するなど、高周波に関する見識の高い専門家でもあります。

20歳代のころ尺八に出会い、本格的に始めたのは50歳代になってからで、琴古流尺八師範の資格をもっています。趣味の域を超えた本格的な演奏、機会があれば聞きたいものですね。

仲町小学校では、5,6年生の理科の授業に関わり、実験の準備や支援サポートなど、自分の専門分野以外でも積極的に支援活動をおこなっています。「子どもたちと一緒に学習することは、とても楽しいですね。」と、仲町小学校での「理科室のおじさん」の活動に満足している様子が伺えました。今年の夏は、茨城県学びの広場サポートプラン事業のサポーターとして、5年生の算数の指導に携わっていました。教えることの難しさを感じながら、理解させることの手立てなどを工夫して関わったそうです。

これからも、機会があれば、尺八の演奏や専門的な分野の話など、子どもたちの理解できる範囲で披露していただけるとありがたいかな、と感じました。



— 問い合わせ先 —

TEL 0294(23)3231 FAX 0294(23)3230

IP 電話 050(5528)4928 内線電話 8954

E-mail:hakubutsukan1@city.hitachi.lg.jp

日立市郷土博物館 岩波 英一